

令和四年十一月一日 信者心の道勉強会

神 示

「教え」に気付きを得て 「真理」に悟りを深める人は皆^{人間}

神の手の中 「心」^{人生}守られる

不思議な体験が重なり 神の实在を体感してゆく

「教え」に心導かれ^{人生} 不安に迷うことがない^{現実}

「真理」で社会の姿を見るゆえに^{現実} 悩む思いが消えてゆく

信者に申す

「心」不安に迷う時 「人生」に 悩み 苦しむ時

直使の笑顔を思い浮かべてごらん

心にゆとりが生まれ 「教え」が心の迷いをほぐす

なぜ人は^{人間} 「心」悩み 苦しみ 不安に迷うのか 分かるかや

欲心^{よくしん}に思いがとらわれ 「実体」を自ら下げている

「運命」の力は抑え込まれ 枯らして

「人生」終わる人も多^{人々}い

「教え」を学び 「人生」に気付きを得て

「希望の光」^{みち}を歩んでほしいと 神^{直使}は願う

心正しく「信者の道」を歩むなら

直使の愛^{運命}が 信者の人生に寄り添う

不思議な体験が日々起^{にちにち}こり

信者の人生は 「真実の光」^{みち}へとつながってゆく